

脊椎脊髓手術拡大に威力発揮

最新鋭術中モバイルCT5月にも導入

製鉄記念室蘭

室蘭市の製鉄記念室蘭病院(足永武理事長、松木高雪病院長・三百四十七床)は、東北・北海道地区で初めてとなる最新鋭術中モバイルCTを、最新式コンピュータナビゲーションとともに五月上旬にも導入する予定だ。

手術中に術野で撮影した患者CT画像をリアルタイムにコンピュータナビゲーション転送、病

変等を三次元的に描出できるようなることから、難治性脊椎脊髓疾患などの整形外科治療をより安全、高精度にできるようになるのが大きなメリット。

頸椎から骨盤までの脊柱変形(脊柱側弯症、変性側弯症、頸椎後弯症等)、脊椎腫瘍や脊椎褥



定術などにも威力を発揮する。またコンピュータナビゲーション画像を用いて手術を行うため、患者や医療スタッフの放射線被ばくも格段に低減できるという。

.....
導入予定の最新鋭術中モバイルCT

同病院には六人の整形外科医が常勤、胆振圏域の専門治療の拠点的作用を果たしている。副院長の小谷善久整形外科部長は「経皮的または小皮切での低侵襲脊椎固定術や人工関節をはじめとする四肢手術等のさらなる発展が期待できる」と話している。

